



慶應義塾大学ビジネス・スクール

カシオ 計算機株式会社 デジタルカメラ戦略

デジタルカメラを発売したカシオ

5

カシオ計算機は純電子式小型計算機の開発で事業を興した会社で、創業者樫尾忠雄は、もともと加工技術の職人で、戦中軍事産業を努めていたあと、1946年に独立、今日のカシオ計算機の前身である「樫尾製作所」を設立した。

同社で当時の電動式計算機（歯車利用）をリレーに置き換え純電気式の計算機を開発科学技術計算用に発売。同時に今日の社名に変更した。

10

その後、電子卓上計算機そして引き続く1972年の有名な電卓戦争で勝利をおさめ、今日の礎を完成した。

この過程で技術的には、小型化技術とデジタル技術を構築。

その技術を活用してデジタルウォッチ、電子楽器、液晶テレビ、ワープロなどを開発していった。そして95年にデジタルカメラを、そして97年にはWindows CEを搭載したハンドヘルド・コンピュータを発売するなど新たな展開を開始している。

15

特に、95年に発売したデジタルカメラ（デジタル・ステイール・カメラ、DSカメラ）は、パソコン用の画像入力端末として注目、96年よりのデジタルカメラ市場の拡大に火をつけることになった。

20

デジタルカメラの競争

デジタルカメラはカシオのQV-100がパソコン入力用として売れ始めたのが引き金となり、1996年67万台、97年210万台そして98年には320万台の出荷が予想されるまでに市場が拡大してきている。

25

しかし、この間の仕様の変化は激しく、97年のベストセラーはカシオからオリンパス光化学工業（オリンパス）の1眼レフ・タイプのCAMEDIA C-1400L（仕様140万画素）とコダックのDC210（ズーム付で109万画素）、そして98年初めは富士写真のファインピックス700という具合に変動をしている。

30

本資料は「技術と経営」のコースのために作成した。
作成にあたってはカシオ計算機の方々にお世話になった。

[作成者：許斐義信]